

**【巨大な記念物の出現】**

4,000年前頃には、北海道の南西部で大規模な記念物が出現します。道南部の鷲ノ木遺跡(森町)では外径37mの環状列石が見つかっており、東北地方北部と一体の文化圏であることを実証する貴重な記念物として知られています。

一方、道央部では3,500年ほど前に巨大な周堤をもつ集団墓地群が出現します。周堤は円形の埋葬用の竖穴を掘った土を周囲に盛上げたもので、キウス周堤墓群(千歳市)では、最大で外径が75mに及ぶものがあります。こうした形態の集団墓地は石狩低地帯を越えて道東部(斜里町朱円周堤墓)まで広がりを見せるが、本州には見られないもので北海道特有の記念物です。



環状列石の調査 鷲ノ木遺跡(森町)



周堤墓の調査 美々4遺跡(千歳市)

**【技術と文化の伝播】**

狩猟・採集・漁労を生活基盤としながら、当時の人々は地域文化圏を越えて交流・交易を活発に行っていました。最も盛んになるのは後期で、ヒスイ装飾品、漆製品の他、接着剤として使用したアスファルト塊なども本州から北海道に運ばれています。一方、道東産の黒曜石が本州北部の三内丸山遺跡(青森市)から出土するなど、北から南に運ばれたものもあります。

大陸との関係をみると、7,000年前頃には「石刃鏃」という特殊な石鏃が北方から伝わって道東北部を中心に広がり、一部は道南西部に達するなど、大陸に近い地理的条件を反映した文化の伝播もありました。



ヒスイ装飾品 キウス4遺跡(千歳市)



漆塗り櫛  
カリンバ遺跡(恵庭市)  
重要文化財



赤彩注口土器  
野田生1遺跡(八雲町)  
道指定有形文化財



アスファルト付着鋏先  
船泊遺跡(礼文町)  
重要文化財



土器に入ったアスファルト塊  
豊崎N遺跡(函館市)



石刃鏃文化の石器群 湧別市川遺跡(湧別町)